

Course number		U-LAS02 20003 LJ35					
Course title (and course title in English)		創造ルネッサンス論 A Art History A		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Human and Environmental Studies Associate Professor,TAGUCHI KAORI	
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Arts, Literature and Linguistics(Issues)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	
				Number of credits		2	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)	
				Year/semesters		2025・First semester	
Days and periods		Wed.4		Target year		2nd year students or above	
				Eligible students		For all majors	
(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)							
[Overview and purpose of the course]							
<p>私たちはしばしば、美術作品を「読む」という言い方をする。美術作品が「見る」のみならず「読む」対象となりうるのは、何故だろうか。作品を「読む」こと。それは、作品の情報を収集し、整理し、再構成しながら、作品の遍歴と物語を辿る作業である。</p> <p>制作者、技法、寸法や制作年にはじまり、収蔵先、所蔵者および展示の履歴、修復記録など作品に関連する情報は無数に存在する。これらの情報は、時に、肉眼では見ることはできない在り方で私たちの前に立ち現れることがある。</p> <p>本授業では、主に保存修復学的な手法を用いて作品を「読む」手法について学ぶ。具体的には、ルネッサンスおよびバロック時代に制作されたイタリア絵画を主要な考察対象としながら、作品の内外に紐づけられている情報の脈絡を探り、解釈を重ねることを試みる。</p>							
[Course objectives]							
<p>1．芸術学特有の基本的な用語や考え方を理解する</p> <p>2．作品に親しみ、名称、作者、時代、表現の特徴や影響関係について理解し、知識を深める</p> <p>3．1と2を踏まえて、それぞれの作品及び作者の個性や、時代、社会との関わりなどについて各自が考え、自らの言葉で説明することができる</p> <p>4．情報の収集の仕方、また、確実な情報に基づく調査研究の方法を学び、自らの考えを論理的に組み立てる方法を実践的に身につける</p>							
[Course schedule and contents)]							
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晩餐》 オリジナルの領域</p> <p>第3回：ピエロ・デッラ・フランチェスカ《キリストの鞭打ち》 補彩と断絶</p> <p>第4回：ラファエロ・サンツィオ《大公の聖母》 加筆と収蔵の経緯</p> <p>第5回：ラファエロ・サンツィオ《一角獣を抱く貴婦人》 洗浄と描き換え</p> <p>第6回：ミケランジェロ・ブオナローティ《原罪》《楽園追放》 洗浄と加筆</p> <p>第7回：ミケランジェロ・ブオナローティ《ピエタ》 修復の領域</p> <p>第8回：アントネッロ・ダ・メッシーナ《受胎告知》 補彩と断絶</p> <p>第9回：ジョヴァンニ・ベッリーニ《牧草地の聖母》 支持体移動</p> <p>第10回：ティツィアーノ・ヴェチェッリオ《バッカスとアリアドネ》 洗浄狂想曲</p> <p>第11回：ティツィアーノ・ヴェチェッリオ《バッカスとアリアドネ》 洗浄狂想曲 2</p> <p>第12回：ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ《聖マタイの召命》 マタイ問題</p> <p>第13回：ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ《ナルキッソス》 X線の射程</p>							
<div style="text-align: right;">Continue to 創造ルネッサンス論 A(2)</div>							

創造ルネッサンス論 A (2)

第14回：アルテミジア・ジェンティレスキ《スザンナと長老》への応答 X線上の亡霊
第15回：フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

成績は平常点 50 % (毎回授業後のコメントシートの提出)、学期末レポート 50 % で評価する。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

- ・ 授業後に提出するコメントシートを書くなかで、講義で扱ったテーマについて考察を深め復習する (60分ほど)
- ・ 次回の授業テーマについて予習を行う (30分ほど)

[Other information (office hours, etc.)]

授業前後の時間に対応します。

個別の連絡手段 (メールアドレスなど) は初回の授業の際に伝えますので、必ず出席をお願いします。